

◆ 卒後教育をうけて

私は病院開設 1 年前に入職しました。そのため卒業して 1 年間は、同じ
民医連仲間の病院で研修を受けました。厳しい指導もありましたが、今思
えば、私にとってとても必要なものであったと思います。

1 年後病院開設と同時に伊那に帰ってきました。私は 2 年目でまだ看護師
として半人前でしたが、新卒者も入職し時には私も指導する立場になりま
した。未熟の部分は、先輩看護師に相談し、学習を進め、看護をしていま
した。

私も 3 年目になり、指導する立場になってきています。指導するには、私
自身理解していないと出来ません。私自身の勉強不足を痛感させられるこ
ともあります。自らの勉強も怠ってはいけないと感じています。

日々看護は進歩しています。雑誌などで情報を得たり、いろいろな勉強会
に参加したりして、看護師としてのスキルを上げていきたいと思っていま
す。

看護師は、患者様の命を預かる大切な仕事だと思っています。看護師にな
ったばかりは、その重要性をあまり認識していませんでした。疾患の知識
を深めることは勿論、患者様・その家族が安心して病気と向き合える環境を
提供する看護師でありたいと思います。病院での卒後教育に加え、日々自
分の看護と向き合い、看護について考えていくことが大切だと思います。

一般病棟：志村奈緒美

